

原発は必要でしよるか

風化させないように、
関心を持ちましよう！

弁護士 北村 栄

原子カムラの 巻き返し

3・11から10ヶ月、未だ福島第一原発は収束していません。完全な廃炉には少なくとも数十年かかると言われています。しかし、野田総理は原発をベトナムに輸出したり、玄海原発の再稼働を簡単に認めてしまいました。また、原発関連の記事も少なくなり、マスコミも読売や産経新聞が原発推進(特に読売新聞は核兵器を持つためにも必要だ)を打ち出し、マスコミを含めた原子カムラ(巨大利権構造)の巻き返しが盛んです。

しかし、子どもたちのためにも、未来の日本・地球のためにも風化させてはなりません。

本当のことを ご存知ですか？

推進派は経済がどうなるのかと言いますが、これは私たちの生命・身体、そして日本という国家の機能の停止という深刻な問題なのです。それが大げさでないことは、菅総理時代に内閣参与として原発問題に関わった原子力の専門家の田坂広志さんが「首都圏3,000万人の避難が

当事務所の活動

現実的可能性あるものとして議論されていたこと」「低レベル放射性廃棄物の最終処分でさえ確立していないこと(トイレなきマンション)」をはつきりと述べています。世界の土地の0.3%しかない日本国土で世界の地震の10%が起こっています。地震があるところで原発をやっているのは日本だけで、それも54基もあります。原発をやめても電力は十分あります。火発電は余力の半分しか使っていません。本当に原発が必要でしょうか。

当事務所も、所員のための原発の勉強会を開いたり、20名を超える弁護士が隣県の浜岡原発終了訴訟に代理人として名を連ねています。浜岡原発はプレート境界面の真上に立つ世界で一番危ない原発で、現在菅前総理の英断で止まっているため、このまま安全に終了させようとの訴訟が昨年静岡地裁に提起され、愛知の弁護士も126名加わった250名を超える大弁護団となりました。また、差し止めだけでなく被害の回復にも全国の弁護士が頑張っています。

ぜひ、共に関心を持ち、子どもたちのためにも原発を止めましよう。